

I 児童の課題

		学力状況について			学習状況について	
児童 の 課 題	市調	全国比4年	94.8	99.2	各学年の苦手分野を概観すると、特に顕著な系統性は見られない。しかし国語科では「書くこと」、算数科では活用的な問題に課題がある。	県学力定着状況調査(6年)の質問紙調査結果からうかがえる課題は、①自己肯定感の低さ ②家庭学習の時間確保である。 また年度途中の全校一斉アンケート調査からは、特に低位層において「もっとゆっくり教えてほしい。」(＝じっくり考える時間が欲しい。わかりたい。)という強い願いが垣間見られた。
	国語	94.8	99.2			
	算数	99.2	99.2			
	調査	全国比5年	104.0	111.5		
県	全国比6年	109.0	125.4	100.5		

II 授業改善の取組(「授業改善の5点セット」目標達成に向けた組織的な授業改善)

①授業改善 テーマ	自己表現する力を育てる授業
--------------	---------------

②授業改善の 重点	自己表現のために必要な語彙と方法、評価の観点を具体化させた授業の推進
--------------	------------------------------------

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
1 学 期	<p>評価の観点を明確にし、自分の考えを書く活動を取り入れた授業を実施する。</p> <p>ペア・グループで条件に沿った話し合い活動を取り入れた授業を実施する。</p>	<p>週1回以上、条件に沿った書く活動を取り入れ、評価する。</p> <p>週1回以上、条件に沿った話し合い活動を取り入れた授業を行い、評価する。</p>	<p>1学期末「書く」活動で、条件に沿って自己表現できている児童の割合を50%にする。</p>	<p>条件に沿った書く活動は、学級によって取組に差があるものの学年末調査でA児童の割合は、11%アップ。C児童は19.3%減少した。ただ、年度当初の調査結果が、かなり厳しかったので、A児童の割合は、学校全体の40%にとどまった。</p>

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
2 学 期	<p>評価の観点を明確にし、自分の考えを書く活動を取り入れた授業を実施する。</p> <p>ペア・グループで条件に沿った話し合い活動を取り入れた授業を実施する。</p>	<p>週1回以上、条件に沿った書く活動を取り入れ、評価する。</p> <p>週1回以上、条件に沿った話し合い活動を取り入れた授業を行い、評価する。</p>	<p>2学期末「書く」活動で、条件に沿って自己表現できている児童の割合を10%アップする。</p> <p>児童意識調査で、「自分の考えを発表できる」割合を50%にする。</p>	<p>条件に沿って「書く」活動は、全体で10%以上アップし、C児童も減少。学年・学級間の格差も1学期に比べ減少。ただ、週末の課題のみの「書く」活動になっている学級もある。時間を設定されると、間に合わない児童も増える。</p> <p>児童意識調査結果は、肯定的な意見が10%アップ。ただ、学年による差が大きく、事前・事後の指導が必要。</p>

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
3 学 期	<p>評価の観点を明確にし、自分の考えを書く活動を取り入れた授業を実施する。</p> <p>ペア・グループで条件に沿った話し合い活動を取り入れた授業を実施する。</p> <p>集会後の振り返りの場と時間を確保する。</p>	<p>週1回以上、授業で条件に沿った書く活動を取り入れ、評価する。</p> <p>週1回以上、条件に沿った話し合い活動を取り入れた授業を行い、評価する。</p> <p>集会の感想発表を担任が指名し、挙手できる児童が70%超えるように事前・事後指導を行う。</p>	<p>3学期末「書く」活動で、条件に沿って自己表現できている児童の割合を10%アップする。</p> <p>児童意識調査で、「自分の考えを発表できる」割合を70%にする。</p>	<p>各学級の継続的な取組で、「書く」活動について、1月の学力調査結果でも成果を得ることができた。</p> <p>自分の考えを発表できる児童は学期を追うごとに増え、全体の場での感想発表など内容も質的に向上してきた。</p>

Ⅲ 補充学習の取組(目標達成に向けた組織的な学習指導)

重点的取組		取組指標	評価
1 学期	低 ○「ステップアップタイム」を利用し、言葉や漢字などの学習を行う。 中 ○「ステップアップタイム」を利用し、基礎・基本の定着を図る。 高 ○「ステップアップタイム」を利用し、学級の課題に応じた補充をおこなう。	○ 担任が、週1回放課後に確認のテストを行い、やり直しまでさせる。 ○ 地域の学習指導員と協働し、週1・2回補充プリントに取り組み、やり直しまで行わせる。 ○ 地域の学習指導員と協働し、週2回課題プリントのやり直しなどを行わせる。	◎
2 学期	低 ○「ステップアップタイム」を利用し、漢字や計算などの基礎基本の定着を図る。 中 ○「朝活の時間」、「ステップアップタイム」を利用し、学級の課題に応じた補充をおこなう。 高 ○「ステップアップタイム」を利用し、学級の課題に応じた補充をおこなう。	○ 地域の学習指導員と協働し、週1・2回補充プリントに取り組みさせる。 ○ 朝活の時間、ステップアップタイム(学習指導員)で週1・2回補充プリントに取り組み、やり直しまで行わせる。 ○ 地域の学習指導員と協働し、週2回課題プリントのやり直しや算数の分野別復習を行わせる。	◎
3 学期	低 ○「ステップアップタイム」を利用し、漢字や計算などの基礎基本の定着を図る。 中 ○「朝活の時間」、「ステップアップタイム」を利用し、各教科の課題に応じた補充・復習をおこなう。 高 ○「ステップアップタイム」を利用し、各教科の総復習を行う。	○ 地域の学習指導員と協働し、週1・2回課題プリントに取り組みさせる。 ○ 朝活の時間、ステップアップタイム(学習指導員)で週1・2回補充・復習プリントに取り組み、やり直しまで行わせる。 ○ 地域の学習指導員と協働し、週2回課題プリントのやり直しや算数の分野別復習を行わせる。	◎

Ⅳ 家庭学習の取組(目標達成に向けた組織的な学習指導)

重点的取組		取組指標	評価
1 学期	育友会・家庭と協力し、テーマに沿って「伝える」活動を行う。	家庭学習で、週1回学年に応じた「話す活動」を行わせる。	○
2 学期	育友会・家庭と協力し、テーマに沿って「伝える」活動を行う。	家庭学習で、週1回学年に応じた「話す活動」をおこない、短学活などを利用し、確認する。	○
3 学期	育友会・家庭と協力し、テーマに沿って「伝える」活動を行う。	家庭学習で、週1回題材を工夫し、学年に応じた「話す活動」をおこない、短学活などを利用し、確認する。	◎

Ⅴ 家庭・地域との協働の取組

重点的取組		取組指標	評価	
家庭との協働	育友会・家庭と協働し、テーマに沿って「伝える」活動を行う。	家庭学習で、週1回学年に応じた「話す活動」を行わせる。	1 学期	○
地域との協働	地域の学習指導員と協働し、ステップ・アップタイムで補充学習を行う。	週2回、学習指導員と学級の課題に応じた補充学習を行う。	2 学期	○
			3 学期	◎

※Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの重点的取組を取組指標で検証し、その達成度により次のように評価を行う。

◎=100%以上、○=80~99%、△=60~79%、×=60%未満

Ⅵ 平成28年度の目標及び達成指標・取組指標

1 大分県学力定着状況調査、全国学力・学習状況調査の平均正答率(県比・全国比)

	目標値	結果
小5 算数 県比	105.0	95.4
小6 国語A 全国比	105.0	111.1
小6 算数A 全国比	105.0	112.8
小6 国語B 全国比	101.0	129.1
小6 算数B 全国比	101.0	119.3

2 全国学力・学習状況調査(質問紙:肯定的回答の割合)

質問事項	目標値	結果
①教科の授業が好き	国語	80%
	算数	80%
②教科の授業が分かる	国語	90%
	算数	90%
③話し合う活動で自分の考えを深め広げる	80%	75%
④授業で分からないことをそのままにしておかない	80%	100%

3 取組指標

①「新大分スタンダード」に基づいた「授業観察シート」を活用し、11月までに2回以上授業を観察する。	
自校で授業観察シートで11月までに2回以上授業を観察した教員の割合	100%

③学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員の公開授業や学びに向かう学校づくり中核校の公開授業に、自校の教員が、2月までに1回以上参加する。	
公開授業に1回以上参加した教員の割合	100%

②全国学力・学習状況調査の調査問題(B問題)を解いて、改善策を見出す研修を、全小中学校が11月まで実施する。	
自校で研修を実施した(実施・未実施)	実施

④「新大分スタンダード」と自校の【③取組内容】に基づいた公開授業を、自校の全教員が11月までに実践する。	
授業を公開した教員の割合	100%